

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 3 月 24 日作成)

小委員会名	ホルムアルデヒドに関する学会規準改定検討小委員会		主 査 名：鍵 直樹 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (企画刊行運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：佐土原 聡
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2014 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホルムアルデヒドによる室内空気汚染に関する設計・施工等規準・同解説の改定に向けた修正作業 ・ 最新の情報を収集し、対応についての協議 ・ 規準の刊行 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	主査：鍵直樹 (東京工業大学) 幹事：天野健太郎 (竹中工務店) 委員：池田耕一 (日本大学), 武廣絵里子 (鹿島建設), 三田村輝章 (前橋工科大学), 堀雅宏 (横浜国立大学), 山口一 (清水建設), 水越厚史 (東京都立産業技術研究センター), 東賢一 (近畿大学), 長谷川麻子 (熊本大学), 木村洋 (長谷工コーポレーション), 山田裕巳 (松江高専)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2013 年度予算	300,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. ホルムアルデヒドによる室内空気汚染に関する設計・施工等規準・同解説
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 外部査読
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 最新情報の収集による修正内容の審議を行い、ドラフトを作成した。 2. 外部査読を行った。 3. 外部査読に回答し、最終原稿を作成、刊行を行った。
委員会活動の問題点・課題	1. 特になし

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項

目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
 * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>標記学会規準の改定に向けて、近年の室内空気基準、各法律などの動向、最新の浄化技術などの情報の収集を行い、修正に関する議論を行った。この検討内容を加味し、ドラフトを作成し、所定の外部査読を行った。その回答及び修正案について、検討を行い、この修正案から、最終原稿の作成、改定版の標記学会規準の刊行を行ったものである。</p> <p>この前回規準作成にあたっては、当時ホルムアルデヒドによる問題が法律や技術的にも、検討段階のものも多くある段階であったため、今回の改定により多くの整理が出来たものと考えている。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。